

言語教育情報研究科

Graduate School of
Language Education and Information Science

guide 2027

言葉を探る

言葉を教える

言葉でつなぐ

Investigating language, teaching language,
and connecting with language.

高度な理論的・実証的研究を進める環境で 言葉の専門家を育成します

近年の情報通信技術や人工知能技術の急速な発展により、本研究科が柱とする言語学、言語教育学、そしてコミュニケーション表現学分野をめぐる環境は劇的に変化しています。大規模言語データに基づく研究手法は言語学において重要な位置を占め、また、生成系AIの教育現場での活用は言語学習の可能性を広げ、あらたな教材や教授法の開発が求められています。とりわけ、大規模言語モデルの発展により、研究においてもAIを仮説生成やデータ分析の補助として活用するなど、人間とAIの協働による新たな研究手法が広がりつつあります。教育の現場においても、AIの利用を前提とした学習環境の再設計や評価のあり方の再検討が求められています。本研究科では、言語情報処理や統計、そして電子教材開発等の科目を配置し、こうしたニーズに対応するとともに、AIを活用する実践的能力と、その出力を批判的に検討する力の双方を養う教育を行っています。

一方で、言語データの蓄積が少ない言語あるいは方言の研究では、その言語・方言の構造そのものの基礎的研究が不可欠です。また、学習者も教授者も多様化し、言語教育研究は広がりを見せています。本研究科では、言語の記述的及び理論的研究手法を体系的に学ぶ科目や、多言語多文化共生社会における言語教育研究に必要なとされる科目を多数用意しています。さらに、コミュニケーション手段の多様化による可能性の広がりとその新たな課題は、AIとの相互作用も含め、いかにして人間が言語及び非言語を用いてコミュニケーションを行っているのか、また人間の言語能力とは何かを私たちに問い直しています。拡充を重ねてきたコミュニケーション表現学分野は、こうした課題に応えるものです。

言語教育情報研究科は、日本語教育・英語教育の専門家を目指す人たちと言葉やコミュニケーションに関わる様々な領域の専門家を目指す人たちに門戸を開放しています。本研究科は、高度な理論的・実証的研究を進める環境を整え、言語教育の実践の場としての教育実習の機会を国内外に用意しています。立命館大学は大学院生のための研究施設や助成制度が充実しています。大学院に入ってから成長する心構えのある方を歓迎します。

立命館大学大学院 言語教育情報研究科長
有田 節子 Setsuko ARITA



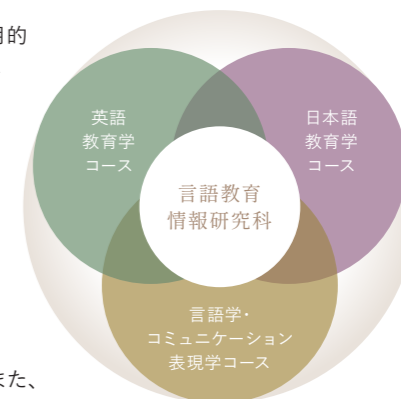
言語教育情報研究科では、
「英語教育学コース」「日本語教育学コース」
「言語学・コミュニケーション表現学コース」を
3つの柱として設定しています。

言語教育情報研究科は、言語教育学の最新の実践的な応用的分野の教育と研究を中軸に据えた現職教員のリカレント教育の場としても機能する言語教育学分野の高度専門職養成を目的として、2003年4月に開設された修士課程のみの独立研究科です。2025年に22年目を迎え、22年の間に972名の修了生を世に送り出してきました。

本研究科は高度専門職養成を目的として開設されましたが、修了生には中学校や高等学校の教員になった人や日本語教員になった人だけでなく、それ以外の進路を選択した人も少なくありません。修了生の進路には、民間企業や大学も含まれています。また、博士後期課程に進学し、研究者として活躍している修了生もいます。

2024年度から、英語教育学コース、日本語教育学コース、言語学・コミュニケーション表現学コースの3コース体制になり、コミュニケーション表現学の分野での教育を大幅に充実させたカリキュラムに移行しています。コミュニケーション表現学は特定の言語を分析対象に限定するのではなく、言語と非言語によるコミュニケーションを分析対象とします。また、表現のあり方についても研究対象とすることができます。

本研究科の教育は、コース間の垣根の低さが特徴の一つです。一部の実習科目を除き、自分が所属するコース以外の科目を受講することができます。自分が興味を持っているテーマを多角的に考察することができる場所、それが言語教育情報研究科です。



人材育成目的

言語教育情報研究科は、英語教育学、日本語教育学、言語学、コミュニケーション表現学の分野において、時代の変化に対応できる専門家としての知識と、電子教材開発/活用の技術、言語情報処理技術、コミュニケーション上の言語/非言語情報の分析技術などを持ち、多文化・多言語の状況にある国内外の社会において活躍できる人材、および、研究者への道を志向する人材を育成することを目的とします。

他コース科目も履修 しやすいカリキュラム

Feature
01

本研究科は「英語教育学コース」「日本語教育学コース」「言語学・コミュニケーション表現学コース」の3コース制です。所属コースでの専門性が高い科目は「コースコア科目」としています。しかし、他コースの推奨科目も「コース選択科目」として提示し、履修の検討がしやすく、幅広い視野で知識を深めることができるカリキュラムです。

多様な背景をもつ 仲間と研究できる環境

Feature
02

研究科には国籍、仕事、目的、希望進路、出身学部など実に様々な背景や経緯をもった院生が在籍しています。自分とは考え方や価値観が異なる仲間と刺激しあい、多文化共生や異文化理解を日常的に体得できる環境で、その中で得た知見を自身の研究にフィードバックすることが可能です。

充実した2年間の 研究指導

Feature
03

1回生の時はゼミには所属しませんが、オフィスアワー*を活用した個人別の研究指導を強化しています。この個人別指導と、1回生が全員履修する「研究基礎論1、2」を有機的に連動させています。2回生から所属するゼミは4月入学生と9月入学生が合同で履修し、一緒に研究活動を行います。研究段階の異なる院生が共にゼミを受講することにより、先輩の研究実践から学ぶなど、院生間の相互作用を促進しています。

※授業とは別に研究科の教員とさまざまな相談をすることができる時間帯

オンライン受講で 修学可能 (主に英語教育学コース)

Feature
04

2026年度から、社会人入試で英語教育学コースに入学される方を対象に、夜間(6・7限)や土曜日に開講される授業をオンラインで受講し、オンライン履修のみで修了できるような仕組みを展開しています。授業はハイブリッド形式で行われ、オンライン受講生も教室で学ぶ学生とリアルタイムで一緒に参加できます(ただし、履修可能科目に制限があります)。英語教育学コースのコア科目に加え、修士論文に向けた研究指導科目もオンラインで受講可能です。昼間に勤務されている方や遠方にお住まいの方も、休職せずに大学院を修了できる環境を整えています。

※詳しくは衣笠独立研究科事務室にお問い合わせください。



立命館大阪梅田キャンパスからも遠隔授業で衣笠キャンパスの授業に参加できます(原則社会人、一部の授業のみ対応)

科目紹介

科目名称内の記号

E:英語教育学コース J:日本語教育学コース L:言語学・コミュニケーション表現学コース C:研究科共通科目 R:研究指導科目

※科目名称は変更されることがあります



当研究科ホームページにはさらにディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを掲載しています。

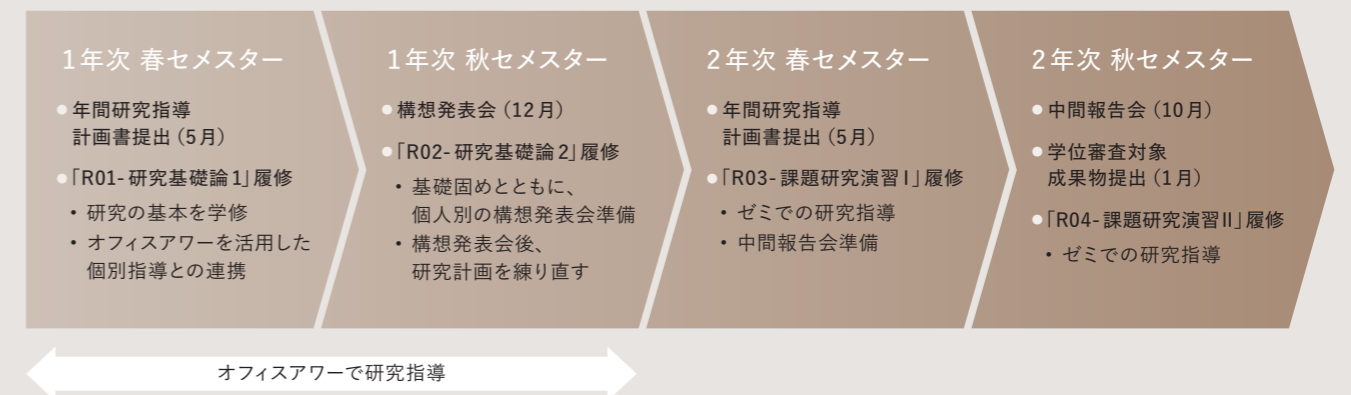
研究指導科目			
R01- 研究基礎論1	R02- 研究基礎論2	R03- 課題研究演習Ⅰ	R04- 課題研究演習Ⅱ
専門科目			
コースでの学びの中核となる科目(コースコア科目)または学びの幅を広げる科目(コース選択科目)があります どのコースに所属していても他コースの科目を履修できます ※[J13-日本語教育学演習(日本語教育実習)]は日本語教育学コース所属者のみ履修可			
英語教育学コース	日本語教育学コース	言語学・コミュニケーション表現学コース	
<ul style="list-style-type: none"> ● E01- 英語教育学総論 ● E02- 第二言語習得論 ● E03- 英語学(文法論) ● E04- 早期英語教育論 ● E05- 言語教育における測定と評価 ● E06- 英語教育における語彙習得論 ● E07- 英語教育学の諸問題 ● E08- 英語教育インターンシップ ● E09- 英語授業分析・教材開発演習 	<ul style="list-style-type: none"> ● J01- 日本語を対象とした第二言語習得論 ● J02- 日本語教育学総論 ● J03- 日本語教授法・教材論 ● J04- 言語文化教育論 ● J05- 年少者日本語教育論 ● J06- 日本語学(語彙・意味) ● J07- 日本語学(文法) ● J08- 語用論・談話分析 ● J09- 日本語教育学の諸問題 ● J10- 日本語教材開発演習 ● J11- 日本語教育実践演習 ● J12- 多文化共生実践演習 ● J13- 日本語教育学演習(日本語教育実習) 	<ul style="list-style-type: none"> ● L01- 音声学・音韻論 ● L02- 意味論・語用論 ● L03- 形態論・統語論 ● L04- 英語語法文法研究 ● L05- 対照表現研究 ● L06- 認知言語学 ● L07- 英語語法文法分析演習 ● L08- 言語調査法演習 ● L09- 言語記述方法論 ● L10- バイリンガリズム ● L11- 言語情報学の諸問題 	<ul style="list-style-type: none"> ● L12- バイリンガル言語習得と脳科学 ● L13- コーパスによる言語分析演習(日・英) ● L14- Perlプログラミング ● L15- 社会言語学 ● L16- コミュニケーション論 ● L17- 音声表現コミュニケーションの諸相 ● L18- 言語表現メディアの諸相 ● L19- 相互行為分析
研究科共通科目			
● C02- 電子教材開発演習			

※科目区分(コースコア科目、コース選択科目)は所属コースにより異なります。コースにより色分けした●●●がコースコア科目、それ以外がコース選択科目となります。

● 英語教育学コースコア科目 ● 日本語教育学コースコア科目 ● 言語学・コミュニケーション表現学コースコア科目

研究科共通科目			
C01- 応用言語学のための統計解析	C04- 外国語教育学新展開講義	C06- 英語アカデミックスキル演習	C08- 特殊講義
C03- 基礎言語情報処理	C05- 英語翻訳学演習	C07- 日本語アカデミックライティング	

2年間の研究指導の流れ 4月入学の場合(9月入学の場合概ね時期が6ヶ月ずれます)



英語教育学コース

English Language Education Course



大学4年間で英語の一種免許を取得した(または、あと少して取得予定の)段階から更に深く英語教育学・英語学を学ぶことで専修免許を取得し、現場で高い専門知識・技量を持った英語教員として活躍できるカリキュラムを提供しています。遠隔授業の科目も多く、働きながら履修しやすい環境を整えています。また、在学中に教育現場体験ができるように、近隣の府立高等学校でのインターンシップも提供しています。情報コミュニケーション・日本語教育学・言語脳科学等のコース提供の講義も受講できますので、修了後の就職には教職だけでなく研究職や一般企業就職等に幅広く対応しています。

※従来研究科で開講してきた海外協定大学におけるTESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages)プログラムは2026年度以降は実施しません。



仕事と研究の両立

社会人院生の仕事と研究の両立について、仕事を持ちながら英語教育学コースに在学・修了した2名にインタビューしています!詳しくは研究科HPをご覧ください。

Curriculum | カリキュラムの特色 |

英語教育関連科目(講義系)

外国語教育の基礎となる第二言語習得理論、その研究成果を踏まえた英語教育学総論、英語教育における語彙習得論、言語教育における測定と評価、カリキュラム設計とシラバスデザイン、そして、日本での英語教育において重要度が増している早期英語教育論などの科目を配置しています。また、外国語教育学新展開講義目も有用です。これからの英語教育を担っていく教員に必要な、高度な専門性を身につけることができるカリキュラムになっています。

英語学関連科目

英語の音声学・音韻論、文法論などの科目を配置しています。英語学に関しては言語学・コミュニケーション表現学コースで設定している内容も多く、意味論・語用論、形態論・統語論、英語語法文法研究、対照表現研究などが学べます。本研究科で学ぶことができる英語学の知識・分析方法は、英語教師にとって必須であるだけでなく、英語学分野の研究を深く続けたいと考える人にとっても重要な基礎となるものです。

実践・演習系科目

英語教育における実践力をつけるために、模擬授業や教材開発に関する科目、英語翻訳学演習、電子教材開発演習、英語教育インターンシップなどの科目を配置しています。また、「アカデミック・スキル」の科目では、プレゼンテーションやアカデミック・ライティングの力を養います。新しい統合型の英語技能学習指導は授業分析のための実践的科目であり、言語学・コミュニケーション表現学コースのコーパスによる言語分析演習も有用な科目です。

Career Path | 想定される進路 |

英語教育学コースでは、現代社会のニーズに応えられる先進的な英語教育学の理論と実践技術・教育力、英語教育に関する知見を身につけることができます。このような能力を活かして主に下記のような進路で活躍する人材を輩出しています。

- 英語教員(小学校・中学校・高校・大学の英語教員)
- 博士課程進学(英語教育学・英語学に関する分野)
- 教育・出版事業
(企画/編集/開発分野、学習塾など)



Student's Voice | 在学生の声



「職場の外国人スタッフと円滑にコミュニケーションを取りたい」「海外旅行先で現地の人と交流したい」「訪日旅行者に日本の魅力を伝えたい」「映画や音楽を英語で楽しみたい」—非常勤講師として大学や企業で英語を教える中で、こうした学習者の声を数多く耳にしてきました。英語学習の成果を実感できる指導とは何かを考えるようになり、その問いを理論的に探求したいと思ったことが、大学院進学のかきかけです。言語教育情報科での学びは、理論と実践が密接に結びついており、これまでの指導経験を新たな視点から捉え直す機会を与えてくれました。現在は第二言語語用論を専門とし、状況に応じた適切な言語使用をどのように教え、学ぶかについて研究しています。仕事と学業の両立は容易ではありませんが、先生方の丁寧なご指導のもと、大きなやりがいを感じ、修了後は研究で得た知見を生かし、学習者一人一人の目的に寄り添った英語教育を実践していきたいと考えています。

英語教育学コース 2025年4月入学 松川 直美 さん

Message | 修了生の声

立命館大学大学院言語教育情報研究科では、英語ライティングにおける協動的フィードバック指導を研究しました。学習者同士が対話を通して文章をよりよくしていく過程を考える中で、書く力だけでなく、相手を理解し、自分の考えを見直す力の大切さを実感しました。ライティング教育がまだ発展途上にある中で、学習者が思考を深めながら学ぶ方法を模索する第一歩になったと感じています。社会人学生として仕事と両立しながら研究を進めることは容易ではありませんでしたが、指導教授や事務の皆さまに支えていただき、学びへの姿勢や教育の本質を見つめ直すことができました。立命館大学での学びを通して、心から教育を変えたいと思えるようになったことは、財産です。AIの活用が進むからこそ、人との対話から生まれる学びや気づきの価値を大切に、英語教育や日本語指導の現場で、人と人との関わりの本質を感じられる学びへとつなげていきたいと考えています。

英語教育学プログラム 2024年度修了 国際ファッション専門職大学 非常勤英語教員 H さん





日本語教師、日本語教育の専門家に必要な、言語学習のプロセス、言語教育、言語、言語と文化／社会の関係などの高度な専門知識と研究方法を学び、国内外の日本語教育機関における教育実習で実践力を身につけることができる体系的なカリキュラムを設定しています。学部で日本語教育や日本語学を専攻した人、現職の日本語教師の方や日本語や日本文化を専門として学んだ留学生など、多様なバックグラウンドを持った院生がお互いに刺激し合い、切磋琢磨できる環境・内容を提供しています。また、本コースが運営する日本語教員養成課程は、登録日本語教員の登録に係る経過措置の対象であることの確認を文化庁より受けています。この養成課程を修了し、所定の手続きをすることにより、登録日本語教員の資格取得のための基礎試験と実践研修が免除されます（応用試験は受験する必要があります）。



日本語教育実習のこと

言語教育情報研究科では、日本語教育学コースの院生に対して、国内外の日本語教育機関において教育実習を行う機会を設けています。実際に実習で学んだ院生のインタビューはこちらをご覧ください。

Curriculum | カリキュラムの特色 |

日本語教育関連科目（講義系）

日本語教育の基礎から応用までの主たる内容として、日本語を対象とした第二言語習得論、日本語教育総論、教授法・教材論、そして言語教育における文化教育論、年少者日本語教育論などの科目を配置しています。日本語教育の知識・実践方法を学ぶというだけでなく、多様な学習者や教育環境に合わせて最適解を自分で考えることができるように、各自の応用力をつけることを目指す内容です。

日本語学関連科目

日本語の音声・音韻、語彙と意味、文法、語用論、談話分析などの科目を、言語学的な視点と応用言語学的な視点で学べるように配置しています。ここで学ぶ日本語学の知識・分析方法は、日本語を外国語として教えるためにも、また、日本語を言語学的に研究するためにも重要な基礎となるものです。

実践・演習系科目

日本語教育における実践力をつけるために、教材開発演習、電子教材開発演習、多文化共生実践演習、日本語教育実践演習（模擬授業含む）、日本語教育学演習（協定校での実習）などの科目を配置しています。特に協定校での実習は、国内の日本語教育機関だけでなく、英語圏、中国語圏、韓国、ベトナムでの実習機会も提供しており、国内外で活躍できる日本語教師の育成を目指したものです。また、正課外の活動として、府立高校での日本語教育ボランティアなどの活動も行っています。

Career Path | 想定される進路 |

日本語教育学コースでは、多様な日本語教育の現場で主体的に日本語教育を展開することができる高度な専門的知識と実践力を身につけます。それを活かして、以下のような進路で活躍できる人材を輩出しています。

- 日本語教師、日本語教育の専門家
国内外の大学、専門学校、日本語学校などの日本語教員、国際交流基金や国際協力機構（JICA）の日本語専門家、地域日本語教室の日本語教育コーディネーター／日本語教師、小中高等学校の外国ルーツの児童生徒を対象とした日本語指導員など
- 本学文学研究科や他大学の博士後期課程への進学
（日本語教育学、日本語学などを専門とする研究者）
- 教育／出版関係など、日本語教育や言語に関する知見とスキルを活かせる業界



Student's Voice | 在学生の声



学部時代、日本語教育の授業で論文を読んでいた際に、「デフォルト」といったカタカナ語の意味を推測することすら難しく、自身の理解力の不足を痛感しました。同時に、こうした困難は個人の語彙力の問題にとどまらず、学習者に共通する課題であると感じました。この経験から、カタカナ語に困難を感じる学習者を支援するためには、より専門的かつ体系的な知識と力が必要であると考え、本研究科への進学を決意しました。入学後は、日本語学や日本語教育学を体系的に学び、多様な事例を通して現在の日本語教育が抱える課題や困難について理解を深めています。また、理論と実践を結びつけた授業や環境の中で学びを深め、視野を広げています。現在は、学習者と教師の両方の視点からカタカナ語習得の支援方法について探究しています。今後は日本語教員試験に向けた準備を進め、教育現場で学習者に寄り添った支援ができる日本語教師になることを目標としています。

日本語教育学コース 2025年4月入学 HU Shijun さん

Message | 修生の声

日本語学校では主に進学を目的とする漢字圏の学習者のクラスを担当していましたが、その後、多国籍で目的も多様な学習者のクラスで教えるようになり、日本語教育を理論と実践の両面から学びたいと考え、言語教育情報研究科に進学しました。研究科では、教材分析・教材作成・教案作成から評価までを体系的に学び、多様な学習者に対応する視点と実践力を養うことができました。ベトナムでの教育実習では、大人数クラスや限られた設備の中での授業を経験し、海外の大学における実際の様子を知ることができ、その中で、どのようにすれば効果的な授業ができるのかを考える機会を得ました。また、経験に頼るのではなく、理論的根拠に基づいて授業を設計し、実践する姿勢も身につきました。大学院での学びを通して、研究のおもしろさにも気づき、実践報告や研究成果に触れ、それらを日々の授業にどう取り入れるかを考えるようになりました。研究科での経験は、現在の授業にも活かされています。

日本語教育学プログラム 2018年度修了 立命館アジア太平洋大学言語教育センター嘱託講師 津田 真理子 さん





本コースは、言語学とコミュニケーション表現学の分野で大学院生が様々な事象を研究できるようになる教育を行っています。日本語や英語といった個別言語を研究対象とするだけでなく、複数の言語の対照研究や各言語の方言の研究も可能です。また、過去の修士論文の中には、日本語や英語の研究成果を応用してモンゴル語やチベット語や中国語を分析したものもあります。さらに、対面調査だけでなくコーパスを使った研究や脳科学による言語研究の方法も学ぶことができます。一方、コミュニケーション表現の分野では、言語とメディアを通じた表現とコミュニケーションを、理論的探究と実践的応用の両面から研究します。会話・文章・映像・広告などの多様な表現手法を批判的に分析し、表現実践を支える高度なスキルを涵養することが特徴です。



コース・領域紹介

言語学・コミュニケーション表現学コースのことをもっと詳しく知っていただける修士生のインタビュー記事や領域紹介を言語教育情報研究科HPでご覧いただけます。

Curriculum | カリキュラムの特色 |

言語学関連科目

音韻論、形態論、統語論、意味論、社会言語学といった言語学の諸分野を扱う科目を配置しています。言語類型論の知見を取り入れた講義は、日本語や英語以外の言語の分析にも役立つ内容になっています。新しい知見を得るには、生成文法などの言語理論を学ぶのに加え、調査や分析の方法も学ぶ必要があります。フィールドワークやアンケート調査のノウハウを学ぶことができる科目も開設しています。文理融合的な科目も開設しています。コーパス分析の科目では、用意されたソフトウェアを使うのではなく、テキストエディタなどによるデータの分析ができる力を身につけることができます。また、脳血流計を使った言語脳科学の科目では、母語と第2言語の脳活動を分析する方法を学ぶことができます。

コミュニケーション表現学関連科目

認知言語学、語用論、コミュニケーション論、相互行為分析、表現メディア研究といったコミュニケーション表現学の諸分野を扱う科目を配置しています。ことばを探究する視点として、特定の語句や文などの表現が、どのような心の作用と関係があるのか、他人に何を伝達しようのか、社会の営みにどう貢献しているのかを学ぶことができます。また、小説やアニメなどのことばを用いたさまざまな表現媒体の作品を分析するための基礎を学ぶことができる科目も開設しています。コミュニケーション表現学を複数の視点から観察・説明できるようになるために、各科目で討議やさまざまな実践体験の機会もあります。たとえば、会話場面を収録するためのノウハウ、分析のための動画や音声の編集やアニメーションソフトウェアの操作方法だけでなく、文章表現・音声表現の機能を考慮したプレゼンテーションやアウトリーチの方法・技術を身につけることができます。

Career Path | 想定される進路 |

言語学・コミュニケーション表現学コースでは、言語学の専門知識を身につけることができるほか、テキスト処理技術に関する専門知識などの能力を身につけることができます。また、単なる意思疎通能力としてのコミュニケーションスキルを超えた、実社会で活躍することを可能にする次世代型コミュニケーション能力や、表現分析に関する専門知識や今日のメディア環境に対応する文章表現・音声表現の実践能力などを身につけることができます。このような能力を活かして主に右記のような進路で活躍する人材を輩出しています。

- 博士課程後期（文学研究科、他大学）進学（言語学など）
- 製造分野（システムエンジニア／研究／開発など）
- 出版社／教育事業分野（企画／編集／開発など）
- 情報・通信分野（新聞／放送／映像・音声・文字情報制作／インターネット関連など）
- サービス分野（コンサルティング／広告／システム／福祉など）



Student's Voice | 在学生の声



語学が好きで、英会話スクールを運営する企業で教材開発の仕事に携わっています。英語圏の方々に日本語を教える仕事にも従事しており、専門性を高めたいと考えて大学院進学を決めました。語用論やポライトネスに興味があり、日本語と英語の配慮表現について研究しています。大学院で学んでみて、これまで自分が先人たちの研究にどれほど恩恵を受けてきたかに気づくとともに、昔学校で教わったことはひとつの説に過ぎなかったという発見などもあり、語学に対してより柔軟に考えられるようになりました。立命館大学の言語教育情報研究科は3つのコースに分かれています。他コースの授業も受けられるので、いろいろな方面から学んで徐々に焦点を絞っていけるのが魅力だと思います。現在、大阪市内で週3日勤務していますが、終業後に梅田のサテライトキャンパスで受講したり、長期履修制度を活用したりしながら大学院と仕事を両立しています。

言語学・コミュニケーション表現学コース 2025年4月入学 古賀 和歌子 さん

Message | 修生の声

私は現在、立命館大学のデザイン・アート学部や生命科学部など全5学部で展開している「プロジェクト発信型英語プログラム」(PEP)の運営に関わっています。英語とICTを知的生産のインフラと位置づけるこのプログラムでは、言語教育情報研究科で学んだことが十二分に活用できており、同じく研究科を修了したPEP教員の同僚らとともにやり甲斐のある日々を送っています。英語とICTの両方を学べる言語研に進学し、修了したからこそ今の私があると断言できます。言語研は、自分次第で多くの刺激とチャンスと人脈を手に入れられる場所です。後輩生にはぜひアクティブかつ貪欲に、研究科のリソースを利用してもらいたいです。



言語情報コミュニケーションコース 2005年度修了 立命館大学デザイン・アート学部教授 木村 修平 さん

修士論文の例

英語教育学コース (英語教育学プログラム)

- Explicit Instruction of Reading Strategies: Its Impact on Japanese University Students' Reading Anxiety and Reading Habits
- How Learners Make Decisions When Using a Rubric in L2 Writing Assessment
- Acquisition of English Grapheme-Phoneme Correspondences (GPCs) Among Young Chinese EFL Learners: A Multiple Case Study

日本語教育学コース (日本語教育学プログラム)

- 中国話者における存在型「位置変化動詞+テイル」の習得研究—習得過程における発達パターンに着目して—
- ビア・レスポンスの対話における自己理解の様相
- 日本語教師における複言語・複文化能力の発達とその展開—複線径路等至性アプローチによる分析—

言語学・コミュニケーション表現学コース (言語情報コミュニケーションコース)

- 「ほんとに」と「ほんと」の意味・用法の違い—意味階層と形式特性の観点から—
- コロケーション「名詞+を+動詞」における活用形の偏りに関する研究
- 条件を表す条件節の独立文化・下位分類と成立過程に関する一考察—If節とUnless節を中心に—



過去3年分の修士論文論題はコチラ

進路

教職

- 公立学校教諭
京都府/京都市/亀岡市/大阪府/大阪市/兵庫県/西宮市/愛媛県/岐阜県/福井県/愛知県/神奈川県/東京都/京都教育大学付属桃山中学校/東京大学附属中等教育学校
- 私立学校教諭
立命館大学系列中学・高等学校/同志社大学系列中学・高等学校/西大和学園中学校・高等学校/京都女子高等学校・京都女子中学校/京都光華中学校高等学校
- 日本語教師
京都日本語学校/京都文化日本語学校/ECC国際外語専門学校/エール学園/メリック外語学院/関西外語専門学校大阪YWCA/立命館大学/立命館アジア太平洋大学/滋賀大学/九州大学/山東交通学院(中国)/建陽大学(韓国)/タマサート大学(タイ)/青年海外協力隊

企業

JTB/NEC/NTTドコモ/P&Gジャパン/アクセンチュア/アップルコンピューター・シンガポール法人/かんば生命/京セラ/サッポロビール/サントリー/ソニー/ニチコン/ニトリ/日本航空/日本生命/日本通運/日本特殊陶業/バンダイ/富士ソフト/富士通/三菱自動車/ユーシン精機/ヨドバシカメラ/国立大学法人職員/私立大学職員/国際協力機構(JICA)/国際交流基金

進学

立命館大学文学研究科/立命館大学先端総合学術研究科/京都大学文学研究科/京都大学人間・環境学研究科/大阪大学言語文化研究科/名古屋大学国際開発研究科/筑波大学人文社会科学研究科/京都外国語大学外国語学研究科/関西大学外国語教育学研究科/関西学院大学言語コミュニケーション文化研究科・文学研究科/総合研究大学院大学日本語言語科学コース/広島大学人間社会科学研究科

資格・免許

教育職員免許状

言語教育情報研究科では、高等学校専修免許状(英語)と中学校専修免許状(英語)の取得が可能です。1種免許状を既に有している場合は、指定された科目のうちから24単位以上単位取得し、修士学位を取得することによって専修免許状を取得できます。

日本語教員養成課程

言語教育情報研究科では、登録日本語教員の登録に係る経過措置の対象となる、「必須の教育内容50項目に対応した日本語教員養成課程等」であることの確認を文化庁より受けています。2024年度から新しく施行された登録日本語教員の制度において登録日本語教員の資格を得るためには、本研究科の日本語教員養成課程の修了に加えて日本語教員試験の応用試験に合格することが求められます。

究論館

(大学院生用研究施設)

2015年4月に開設された大学院生のための研究施設です。院生が個人で利用できる机(キャレル)や、研究科や専門を超えて、グループでのディスカッション、共同研究、研究成果の発信・共有などができる院生のためのスペースとしてリサーチcommonsを設置しています。



院生の研究力強化のための研究交流セミナー

大学院での研究は教員からの指導だけでなく院生間の交流によって育まれる側面があります。コロナ禍により院生間の交流が一時停滞したことを受け、研究科では2024年度から「研究交流セミナー(発足時「初年次セミナー」)」を行い、院生間の研究交流を促進することになりました。春学期に2回生の院生有志数名が準備中の修士論文について紹介し、1回生の院生の質疑に答える企画と、交流会や懇親会を組み合わせた企画です。交流会の一部では、周辺の寺社仏閣など文化遺産を訪ね、その道中で自身の研究や興味関心について意見交換します。アットホームな雰囲気の中、教員にも気軽に質問する院生の様子が見られます。新入生同士だけでなく、先輩院生とも知り合うことができ、研究の視野を広げる貴重な機会となります。



言語脳科学研究

言語教育情報研究科では、2010年度以降研究科プロジェクトとして脳科学による言語処理メカニズム解明研究を、教員と院生が共同研究者となり取り組んでいます。科研費等学内外の研究費を獲得して、人文系研究科としては極めて珍しい大型機器(島津製作所OMM-3000)を所有した特色ある研究を進めています。英語学習者・バイリンガル帰国生・中国人プロ中日英通訳者・国際結婚家庭児等を対象として言語習得・喪失現象を言語面に加えて脳賦活状態を多面的に探る研究を進めてきました。最近、これに加えて脳波や眼球運動データも同時収集して、基礎研究からワーキングメモリモデルを基盤とする仮説検証型研究へと徐々に移行しています。将来的に効果的な外国語学習法や喪失しないための方略に繋がる研究を進める為です。



キャリア支援

言語教育情報研究科の修士生の進路は多様です。日本語教師や英語教師といった教育職だけでなく、企業への就職を希望する院生や博士後期課程に進学を希望する院生もいます。本研究科では対象別のキャリア支援企画を独自で行っています。具体的には、教育職(特に語学教員)、日本国内企業への就職、後期課程進学という希望進路別に「座談会」を実施しています。この企画は、言語教育情報研究科修士生・内定者・キャリアセンター職員などをゲストに迎え、院生が進路にまつわる自身の不安や疑問を具体的に投げかけながら、その場でアドバイスをもらえる双方向型の企画です。今後も研究科では院生からの要望や進路動向を見ながら、各種キャリア支援企画を実施していきます。



コーパス

コーパスとは、コンピュータで処理できる大量の言語資料を指します。人間であれば100年かかる作業がコンピュータだとほんの数秒でできます。コンピュータがもつこの桁違いの情報処理能力を駆使して、これまでの言語研究では見逃されてきた構文や、語と語の慣習的な結び付きであるコロケーションなどを詳細に記述することが可能になりました。コーパスから適切に情報を抽出するためには言語学的な分析力と機械についてのある程度の知識が不可欠ですが、これらの知識を駆使し、本研究科が保有する高性能のコーパス用サーバーと膨大な量のコーパスを活用することで、英語・日本語の諸特徴を探っていきます。現在はコーパスを処理するための便利なソフトがありますが、可能な限りそれらには依拠せず、処理過程を透明にし、コーパスをブラックボックスにしない方法を考えます。



教員紹介

David Coulson 教授

〔専門領域〕
Second Language Vocabulary Acquisition,
TESOL, CLIL, SLA

主に英語教育学コースを担当

My research activity these two years has been the learning and use of collocations by learners of English. The results show a very surprising, unexpected pattern that emphasize the importance of vocabulary learning. More research in this area is necessary. In addition, I am interested in various other vocabulary research topics. In the last year, I have conducted research about the development of vocabulary ability after an intensive extensive reading course. Many research topics like this are possible. In addition, I am interested in applied linguistics and second language education topics, particularly translation in second language learning. I also try to publish research papers with students.

佐野 愛子 教授

〔専門領域〕
バイリンガル教育、ライティング教育、英語教育

主に英語教育学コースを担当

バイリンガルであること、バイリンガルになること、バイリンガルを育てることについて、とくにリテラシーの獲得に焦点を当てながら様々なコンテキスト（英語教育、日本手話と日本語のバイリンガル教育としてのろう教育、外国にルーツのある子どもたちのリテラシー教育、海外における継承日本語教育）で研究をしています。バイリンガルの子どもたちが、「〇〇語に課題のある子どもたち」と捉えられるのではなく、「多様な言語資源を持つ子どもたち」として評価され、その言語資源が十全に活用されるような教育のあり方について考えています。

清水 裕子 教授

〔専門領域〕
英語教育学、言語テスト、
ESP:English for Specific Purposes

主に英語教育学コースを担当

言語教育における測定と評価に関連する領域を研究対象としています。最近の英語教育における産出能力テストの導入の動きは、様々な波及効果を与えていくと予想でき、教室環境での言語テストとカリキュラムの親和性の経年分析を通して、テストが備えるべき要素のひとつである妥当性について研究を進めています。もうひとつの領域として、ESP（English for Specific Purposesの観点からのカリキュラム設計や教材開発にも興味をもっております。

山崎 のぞみ 教授

〔専門領域〕
英語教育学、語用論、談話研究

主に英語教育学コースを担当

英語学と英語教育学の橋渡しを目指しています。特に、語用論や談話分析の知見を援用し、またコーパス分析を併用しながら、会話に見られる周辺的な言語現象とコミュニケーションの関係を探っています。このような話し言葉研究を英語教育へ応用することによって、文法指導、インタラクション指導、コーパスを使った学習、言語活動、教材開発の分野に新たな視点を提供したいと考えています。

有田 節子 教授

〔専門領域〕
言語学、日本語学、
日本語文法研究の日本語教育への応用

主に日本語教育学コースを担当

現代日本語の文法と意味についての言語学的研究を日本語教育に活かすことを目指しています。日本語のみならず、さまざまな言語の文法現象の分析に適用可能な枠組みで研究を進めることにより、さまざまな母語を持つ学習者に対する日本語教育に貢献したいと思っています。特に、日本語非母語話者の日本語教育者、日本語研究者にとって本当に必要な知識・技能とは何かについて常に考えながら研究・教育に取り組んでいます。

大島 弥生 教授

〔専門領域〕
日本語教育学、談話分析

主に日本語教育学コースを担当

留学生に対する日本語教育、特にアカデミック・ライティングについての教育・研究を行っています。留学生が産出する文章の特徴を探る中で、読んだものや聞いたものなどの外からの情報をどう自己の文章に取り込み、情報への解釈や評価を表していくかに興味を持っています。留学生が目標とする学術論文ジャンルについても、その言語的特徴を探り、教材開発につなげたいと思っています。同時に、レポートを書くプロセスにおいてお互いに書き手・読み手となって意見を交換する協働学習やジグソー学習の中で、どのような情報のやりとりが起きているのか、何を学んでいるのか、という点も研究テーマとしています。

北出 慶子 教授

〔専門領域〕
日本語教育学、談話分析、言語教師教育、質的研究

主に日本語教育学コースを担当

多文化共生社会で求められる言語教育の形とは何か、そのような教育実践ができる教師を育成するにはどうすればよいか、について研究しています。具体的には、①複言語・複文化を有する人や複数の言語文化を越える経験をした人の語りに着目したライフストーリーの研究、②新しい時代に求められる言語教師教育プログラムの開発・検証、③受講生の多様な背景を活かした学び合い（共修）の場やコミュニティの創出、について取り組んでいます。

平田 裕 教授

〔専門領域〕
日本語教育学、日本語の歴史言語学、
言語変化とバリエーション

主に日本語教育学コースを担当

大きく分けて2つの分野の研究をしています。第1は、教室での日本語教授法、教材、テスト、自習の位置づけや内容などについて、より普遍的で一貫したアプローチによって向上させていく方法を研究しています。第2は、競合する語形／表現から生まれる使い分けや取捨選択、様々な言語／方言で見られる共通の現象、似ているけれども少し違う現象などを検証し、どのように言語を捉えるべきかを研究しています。

道上 史絵 准教授

〔専門領域〕
日本語教育学、移民政策と言語政策

主に日本語教育学コースを担当

日本で非日本語母語話者として生活する人々は、言語的な生存戦略を模索しながら日々の社会生活を営んでいます。こうした言語的实践を社会言語学的な視点から明らかにし、それを通じて、制度や政策を含むマクロレベルの社会構造を批判的に検証することを研究の中心に据えています。特に、移民政策や日本語教育政策に注目し、私たちが生きる社会をすべての人にとって住みやすいものにするために、日本語教育はどのような貢献ができるのか、その役割や可能性について研究しています。

吉川 達 准教授

〔専門領域〕
日本語教育学、第二言語習得論

主に日本語教育学コースを担当

日本語を母語としない人への日本語教育、日本語学習者の日本語習得についての研究を専門としています。日本語の習得には、意味のある理解可能なインプットを多量に得ることが必要ですが、それを可能にする活動が多読或多聴です。多読或多聴がどのように学習者の日本語習得を促すのか、そのための素材をどのように作るのか、どのような形で教育実践に取り入れるのかについて研究しています。また、生成AIやメタバースのような情報技術にも興味を持ち、それらを取り入れた日本語教育にも挑戦しています。

岡本 雅史 教授

〔専門領域〕
コミュニケーション研究、言語学（認知言語学・語用論）

主に言語学・コミュニケーション表現学コースを担当

一貫してコミュニケーションとリアリティを二大研究テーマとしており、人間はいかにして言語・非言語を用いてコミュニケーションを行っているのか、世界をどのように言語によって分節化し、認知しているのか、さらにはどのようにして世界と現実感（リアリティ）を持って接することができるのか、等について言語・非言語の観点から考察・研究を進めています。近年は漫才対話に着想を得た「オープンコミュニケーション」という概念をベースに、漫才・コントから日常会話に至るまで、多様な相互行為場面の分析に取り組んでいます。

佐々木 冠 教授

〔専門領域〕
言語学、日本語方言文法記述

主に言語学・コミュニケーション表現学コースを担当

日本語の方言の文法記述が主な専門です。類型論や理論言語学の知見を活かして方言の形態音韻論、格、文法関係、態について分析しています。様々な言語の分析を参考に方言の文法を分析するだけでなく、方言の分析から理論的な貢献をすることも心がけています。言語接触による言語変化など社会言語学的なテーマにも関心があります。東日本の方言を中心に研究してきました。西日本の方言への理解を深めたいと思う今日この頃です。

佐野 まさき 教授

〔専門領域〕
生成文法、比較統語論、構文意味分析

主に言語学・コミュニケーション表現学コースを担当

研究しているのは次のようなものです。①言語間あるいは言語内のWh疑問文の比較（日本語では「誰がなぜ泣いたの?」はOKでも「なぜ誰が泣いたの?」はダメな文、英語ではWho cried why?もWhy did who cry?もダメな文）、②日本語のとりたて詞（ダケ、サエ、モ等）とそれに対応する英語（only, even, also等）との比較、③日本語の複文とそれに対応する英語との比較、④日本語の敬語の普遍文法からの考察、など。自分（母語）を観察するのは案外難しいものです。それを、他人（外国語）の目を通して観察すると、自分も他人もよく見えてくることがあります。

城 綾実 准教授

〔専門領域〕
会話分析、コミュニケーション論

主に言語学・コミュニケーション表現学コースを担当

私の研究は、会話分析と呼ばれる観察科学を用いて、録音・録画した多様な相互行為の成り立ちや構造を明らかにし、私たちに備わる社会成員としての能力の豊かさを示すことです。言葉だけでなく、言葉を発する際の声の出し方、視線の動きやジェスチャーのような身体動作、周囲の道具や環境などにも着目した分析をしています。現代社会の実際的な理解や諸問題解決への一助として、介護、医療、科学コミュニケーション場面などの研究にもかかわっています。

杉村 美奈 准教授

〔専門領域〕
言語学（統語論、統語論・形態論インターフェース）

主に言語学・コミュニケーション表現学コースを担当

生成文法理論の枠組みにおいて、再構築化（restructuring）現象、「が」格目的語の認可条件、複雑述語（complex predicates）形成、主要部移動（head movement）などが関わる統語現象を研究対象とし、それらの現象を説明する理論構築を行っています。主に英語や日本語を対象言語としていますが、研究対象に関連する他言語のデータも考察します。統語論と形態論が関わり合う言語現象に興味があり、語の仕組みや接辞の具現化に関わる問題を統語論においてどのように説明できるかなど、統語論・形態論インターフェース研究にも取り組んでいます。

滝沢 直宏 教授

〔専門領域〕
英語学、コーパス利用の方法論研究

主に言語学・コミュニケーション表現学コースを担当

これまでの英語学研究で周知的あるいは例外的とされ、十分にあるいは全く研究されていなかった構文的現象を発掘し、その詳細な記述と理論的意味合いを考察しています。また、句の慣習的結合関係であるコロケーションの記述的研究も行っています。最近は特にly副詞の振る舞いに関心をもってしています。両者の研究に深く関わるコーパス利用についても、その方法論自体を研究対象にしています。

西岡 亜紀 教授

〔専門領域〕
比較文学・文化、声と画像のメディア、文章表現教育

主に言語学・コミュニケーション表現学コースを担当

詩や小説はどのようにして生まれるのか。文芸のテキスト分析や異なる言語や表現メディア間の対照分析、それらを踏まえたライティング教育を専門としています。詩や小説などの文字のメディアはもちろん、絵解き・紙芝居・マンガ・アニメーションなどの声や画像のメディアも扱います。現代のメディア環境のなかで多様化するフィクションが、既存のフィクションの歴史性や思想性をどう継承するのか（できるか）を問い続けています。こうした研究を通して、出版分野、教育分野、サービス分野などで、次世代の表現実践を支える人材を育てることを目指しています。

もっとこの先生の
情報を知りたい！

より詳しい教員情報はこちらのQRから
ご覧いただくことができます。



言語教育情報研究科HP
「教員一覧」

なお、言語教育情報研究科は出願までに研究指導を希望する教員と面談をしていただく必要はありません。入学後により多くの教員の研究分野や研究手法に触れながら、2回生から研究指導を希望する教員を考えてください。

Access



Campus Map



キャンパスマップ

創思館（研究科基本棟）



平井嘉一郎記念図書館



\ Welcome! /

教員や院生に話を聞いてみよう！

言語教育情報研究科では年に2回（春・秋）入試広報企画を実施します。Zoomで入試説明会を実施するほか、対面やオンライン形式で各種企画もおこないます。また、11月には研究科独自の対面企画「OPEN LEIS」を開催し、教員や院生に直接質問しながら、研究内容や院生生活・研究施設について知る機会も用意しています。詳細は言語教育情報研究科のHP <<https://www.ritsumeai.ac.jp/gslais/>>をご覧ください。

言語教育情報研究科の教員と連絡をとりたい場合は、氏名、連絡先、研究テーマを明記し、衣笠独立研究科事務室まで電子メールで連絡してください。尚、受験を予定している入学試験の出願開始日2週間前から入学試験当日までの間は教員と連絡をとることはできません。

2026年度実施入試日程 選考方法、出願資格などの詳細は入学試験要項をご確認ください

	出願期間	試験日	合格発表日	実施する入試方式
2026年 9月入学	2026年5月28日(木) ～2026年6月11日(木)	2026年7月5日(日) <small>※海外在住者は別途連絡します。</small>	2026年7月16日(木)	一般・外国人留学生・APU特別受入
	2026年5月28日(木) ～2026年6月11日(木)	2026年7月5日(日)	2026年7月23日(木)	学内進学
2027年 4月入学	2026年7月9日(木) ～2026年7月23日(木)	2026年9月12日(土)	2026年10月1日(木)	一般・社会人(一般)・社会人(自己推薦)・社会人(協定)・ 外国人留学生・学内進学・APU特別受入
	2026年12月3日(木) ～2026年12月17日(木)	2027年2月6日(土)	2027年2月25日(木)	一般・社会人(一般)・社会人(自己推薦)・社会人(協定)・ 外国人留学生・学内進学・APU特別受入・飛び級

※9月入学の一般・外国人留学生入試では日本語教育学コースは募集しません。



立命館大学
衣笠独立研究科事務室

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
TEL:075-465-8363 FAX:075-465-8364
E-mail: doku-ken@st.ritsumeai.ac.jp

立命館 言語教育情報

